

1. 調査報告概要表

作成日 平成 20年 3月19日

【評価実施概要】

事業所番号	1272200922
法人名	特定非営利法人 グループホーム陽だまり
事業所名	グループホーム 陽だまり
所在地	千葉県柏市高田999-22 (電 話) 04-7149-5246
評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8
訪問調査日	2008/3/12

【情報提供票より】(20年 2月 10日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 13年 8月 1日			
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6	人
職員数	9 人	常勤	4 人, 非常勤	5人, 常勤換算 6.6人

(2)建物概要

建物構造	木造瓦・亜鉛メッキ合板葺造り
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 ~ 60,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷 金	有(円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(50,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 無
食材料費	朝食 円 昼食 円	夕食 円 おやつ 円	
	または1日当たり	2,000円	

(4)利用者の概要(2月 10日現在)

利用者人数	5 名	男性	1 名	女性	4 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.2 歳	最低 81 歳	最高 91 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	千葉・柏・たなか病院、金森医院、たかだ歯科
---------	-----------------------

株式会社 日本ビジネスシステム

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営者の自宅を改修した施設である為、地域住民とは顔馴染みで散歩時に挨拶を交わす関係作りがなされている。また、来訪者が多く、ご好意でおすそ分けを受ける事もある。施設の雰囲気はとても家庭的で入居者は和やかに毎日を過ごされている。「してあげるケア」ではなく「一緒に過ごす事」を主眼にして共同生活においては、入居者と職員が共に支えあう関係が構築されており、職員は日々入居者に学びを得、尊敬しながらサービスを提供している。地域のグループホームとの合同行事を定期的に行い、梅拾い、お花見、コンサート鑑賞等の活動の場を広げている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価で改善を指摘された項目に関しては、職員で検討の上、適切な対応がなされている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価においては、管理者が作成をしている。評価に対しては、気付きを大切に改善点を検討の上、サービスの質の向上を目指している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	入居者、家族、町会役員、地域包括支援センター職員、近隣商店主を構成員とし、同法人が運営する「グループホーム陽だまり寿の家」と合同で3ヶ月に1回開催されている。会議では主に、業務や入居者状況の報告を行い、施設の認識・理解の促進を図っている。また、市への意見、質問の場として運営推進会議を活用している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情・相談窓口を設置していると共に、家族の面会時に意見・要望等の確認を行っている。現在、意見・要望等は特に無いが、挙がった意見・要望等に関しては、職員間で適切な対応に努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	運営者が地域住民である為、地域の方々とは馴染みの関係ができています。散歩の際は、近隣住民と挨拶を交わす関係が築かれており、ご好意でおすそ分けを受けたりしている。町会に加入しており、地域のお祭りや防災訓練に参加をしている。また、地域の中学生の体験学習を受け入れていると共に、小学校の運動会に招待されている。その他にも、ボランティアの受け入れを行っており、地域交流を積極的に行っている。

2. 調査報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	健やかな暮らしや地域社会に貢献しながら社会福祉の増進を図る事を主眼とした独自の理念を掲げ、職員全員が理念に沿ったサービスの提供を意識している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	採用時に理念の説明を行っていると共に、随時ミーティング等を通して理念の確認を行っている。また、理念に基づいたサービスの実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営者が地域住民である為、地域の方々とは馴染みの関係ができています。散歩の際は、近隣住民と挨拶を交わす関係が築かれており、ご好意でおすそ分けを受けたりしています。町会に加入しており、地域のお祭りや防災訓練に参加をしています。また、地域の中学生の体験学習を受け入れていると共に、小学校の運動会に招待されている。その他にも、ボランティアの受け入れを行っており、地域交流を積極的に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価で改善を指摘された項目に関しては、職員で検討の上、適切な対応がなされている。また、今回の自己評価においては、管理者が作成をしている。評価に対しては、気付きを大切に改善点を検討の上、サービスの質の向上を目指している。	○	職員全員が自己評価の作成に関わることにより、評価の意義や活用方法の理解を更に高めていただく事を希望します。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、家族、町会役員、地域包括支援センター職員、近隣商店主を構成員とし、同法人が運営する「グループホーム陽だまり寿の家」と合同で3ヶ月に1回開催されている。会議では主に、業務や入居者状況の報告を行い、施設の認識・理解の促進を図っている。また、市への意見、質問の場として運営推進会議を活用している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事務長が柏市グループホーム連絡会の副会長を務めており、市の担当者との積極的な連携を図っている。市の包括支援センターとは、業務、入居者に関する相談等を通して相互の信頼関係を構築している。また、市と連携し認知症サポーター養成講座を開催している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に家族が面会に訪れ、その際、入居者の状況、金銭管理、職員の異動等を報告している。また、生活状況に変化があった場合は、その都度、電話等で報告をしている。行事を企画した場合は、案内を作成し、家族の参加を呼びかけている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談窓口を設置していると共に、家族の面会時に意見・要望等の確認を行っている。現在、意見・要望等は特に無いが、挙がった意見・要望等に関しては、職員間での検討だけでなく、医師等の必要関係者に相談し適切な対応に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在は職員の異動はなく、人材は安定している。退職があった場合は、家族の面会時に報告を行っている。入職に関しては、管理者と共同で業務を行い、入居者に対し声掛けの仕方を工夫すると共に、ストレスなく接する事のできる環境作りに努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じた育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には、職員から希望を取り、積極的な参加を呼びかけている。研修参加後は報告会を行い情報の共有を図っている。また、介護技術等に関しては日々の業務の中で指導を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡会を通じて、定期的に交流が行われている。各事業所が共同で研修会、情報交換会等を企画・実施しており、相互の質の向上に努めている。また、合同行事を実施しており、入居者・家族・職員間の交流を促進している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の見学、面接を通じて、本人及び家族の意向や思いの把握に努めている。また、体験入居を実施しており、納得・理解した上での入居をしてもらっている。入居後は、声掛けの工夫や適度な気分転換を行い、できるだけ早く施設に馴染んでもらうよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の意向を汲み取りながら家事等の生活活動に参加してもらっている。また、職員は入居者を人生の先輩として敬い、心遣いや人生経験を学びながら共に支えあう関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	情報収集シートに本人の意向や生活歴を家族に記入してもらっている。また、日々の生活の中で本人から意向や希望を確認し、職員全員で共有を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員全員が交代で各入居者の介護計画作成に関わっており、管理者及び作成担当者とし合いながら介護計画が作成されている。また、家族の意見・要望等も反映されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回の見直しを行っていると共に、生活状況に変化があった場合やミーティング等で見直しが必要と判断された場合はその都度見直しを行っている。見直しについても、職員全員が交代で各入居者の介護計画作成に関わっており、管理者及び作成担当者とし合いながら介護計画が作成されている。また、家族の意見・要望等も反映されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の入院時には職員が随時お見舞いに行き、医師と情報交換をし、できるだけ早く退院できるよう支援している。地域のグループホームと合同行事を計画・実施していると共に、法人が運営している「グループホーム陽だまり寿の家」とは、互いに行き来する関係を築き、共同で外出会を行い外部との交流を盛んに行っている。また、地域の小中学生との世代間交流を積極的に行っている。認知症に関する相談を受け、必要と判断した場合、緊急の受け入れも行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院以外でも希望があれば、かかりつけ医の受診も支援している。地域の医師と連携し、定期的な往診を行っていると共に、24時間連絡を取ることが可能であり、適切な医療体制がなされている。受診状況に関しては、随時家族に報告を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期における方針を承諾書に謳い、家族に同意を得ている。終末期に関しては、家族や医師と連絡、相談を行い、出来る限り本人・家族の意向に沿った終末期の支援を行っている。		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関する方針を掲げ、家族に同意を得ていると共に、個人情報においては、事務所に保管をし個人情報保護に努めている。入居者に対しては尊厳を尊重した接遇マナーを心がけ、言葉遣い、対応方法に注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活に日課は定めておらず、本人の意向・ペースに合わせて柔軟に対応をしている。希望がなかなか言い出せない入居者に関しては、希望を言いやすい環境作りに努め、会話の中から本人の意向を汲み取り対応している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物、調理、配膳、片付け等を共同で行っており、献立は職員を中心に、入居者の好み、希望を取り入れながら作成を行っている。定期的に外食会を企画・実施し食の楽しさを支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日実施し、希望に応じて回数等は柔軟に対応している。また、足浴や清拭を行い、清潔保持を図っている。入浴拒否に関しては、日程を変えたり、声掛けにて対応し、強制することなく入浴してもらえるよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	能力に応じて家事等の生活活動に参加してもらっている。日中はリビング等で一人ひとりが自由に過ごしている。また、希望に応じたレクリエーションを実施していると共に、茶道等の趣味・特技を活かした気晴らしを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	随時、散歩の支援を行っており、週に2日ボランティアの方が散歩支援の為に来訪してくれる。また、定期的に外出会・外食会を企画・実施し、戸外での楽しみの支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中はチャイムを活用しながら、玄関の鍵をかけずに入居者の自由な暮らしを支援している。外に出た場合でも無理に引き止めず、見守りや言葉かけにより柔軟に支援している。居室の鍵は設置していないが、職員は入居者のプライバシーに配慮した対応を心掛けている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いの避難訓練を実施していると共に、町会で行われる地域の防災訓練に参加をしている。日頃の呼びかけにより近隣との協力体制は整っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の好みや能力に合わせた食事提供を行っている。また、食事及び水分摂取量の記録も行われており、摂取量が少ない場合は、間食や栄養補助食品等を提供して必要な栄養を確保している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、色とりどりの花が飾られている。リビングでは、ソファや掘りごたつが設置されており、入居者がくつろげる環境となっている。庭には、ベンチとテーブルがあり、お茶飲みやお花見が楽しめるスペースとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の希望により自由に馴染みのものを持ち込むことが可能であり、居心地よく生活が出来るように配慮されている。全居室にエアコンが設置してあり職員により空調管理も適切に行われている。		